

## — 第19編 — スローライフの里とまち

イタリアに限らず、地中海の暮らしはスローライフである。その暮らしの豊かさを最も典型的に体験できるのがトリノを州都とするピエモンテ（山の麓）<sup>\*1</sup>だ。超高層ビルのないトリノはかつてイタリアの首都だったことや、フィアットの城下町だったこともあり、その蓄積された富の質と量はただものではない。かつての宮殿が校舎として使われている

ポー川沿いのトリノ工科大学<sup>\*2</sup>（写真19-3、4）など、何度行ってもかなわないと思う。

そんな街での国際会議や展覧会を機にたびたび足を運んだ。そして、あなたに雪を頂くアルプスを望み、周囲に緩やかな起伏のブドウ畑が広がる近郊で、スローな文化の神髄に触れる



写真19-1 遠くアルプスを望むピエモンテ



写真19-2 屋下ガリのトラットリア

ことができた。なにせ、近くにはイタリア最大のワインセラーを抱えるお城のような「食科学大学」<sup>\*3</sup>があり、世界中から手練れのコックを目指す若者が集まって、スローフードの腕を磨く、そんな土地柄である。

日曜の昼過ぎに知り合いと乗り込んだ丘の上のトラットリア<sup>\*4</sup>では、ランチなのに前菜からエスプレッソにたどり着くまでに、優に3時間はかかった。最後はさすがに疲労感を覚えたが、我々が忘れ去った、スローであることになにより価値がある。味覚はもちろん延々と田園風景を愛でながら語り合う時の流れが極上であったことは言うまでもない。

こんな幸せな街から2〜3時間アルプスを目指して車を飛ばせば、そこにはモンテローザ<sup>\*5</sup>を間近に見上げる急峻な山岳地域が待っている。スイスやフランス国境を感じながら、細い山道をトレッキングすると、変化に富んだ森や集落と遭遇できる。谷筋ごとに異なる南アルプスの山岳文化を味わいながら、のびやかなピエモンテとは全く異なる様相に満足すること請け合いです。



写真19-4 トリノ工科大学玄関（元Valentino 城）



写真19-3 トリノ工科大学講義室（元Valentino 城）

\*1 Piemonte: アルプス山脈南西麓に広がる州

\*2 Politecnico di Torino

\*3 The University of Gastronomic Sciences: スローフード協会の主導で、ホテルツォに2004年創立

\*4 Toratoria: 大衆向け小レストラン

\*5 Monte Rosa: スイスとの国境にある標高4,634 mの山